

FDI 世界歯科会議@ブエノスアイレスレポート

2018年9月5日～9月8日に FDI(国際歯科連盟)世界歯科会議(World Dental Congress)がアルゼンチンのブエノスアイレス La Rural Congress Centre で開催されました。



FDI は 1900 年設立に設立されたスイス・ジュネーブに本部をおく国際歯科連盟で、日本歯科医師会や日本歯科商工協会をはじめ世界約 200 歯科関連団体が参加し、100 万人以上の歯科医師の代表的な組織として、国際的に健康増進政策や継続的教育プログラム、口腔健康推進活動をサポートしております。



FDI 世界歯科会議は今回で第 106 回目の開催となりますが、ブエノスアイレスでの開催は 30 年ぶりの開催となります。アルゼンチンは 278 万平方キロメートルと日本の約 7.4 倍ものの国土を持つ国で人口は約 44 百万人おり、うちイタリア・スペイン系を中心とする欧州民族が 97%を占めている国です。その中のブエノスアイレスは首都でスペイン・イタリアを中心とした欧州系移民が築いた「南米のパリ」とも呼ばれ、欧州風の綺麗な街並みで、国家人口の約 1/3 にも当たる約 15 百万人もの人がこの首都圏で生活しており、南米の中でも中心的都市の役割を果たす都市です。

そんな、アルゼンチン・ブエノスアイレスでの FDI 世界大会の開催で、予防、保存修復、エンド、歯周病、義歯、インプラントなど歯科の各分野で多くの興味深い公演が行われましたが、その中でも特に注目を浴びたのは、世界口腔健康保健フォーラムの『Healthy Ageing ～ Oral Health for an Aging Population～（健康的老化～高齢社会に対する口腔健康～）』です。

### ① 世界口腔保健フォーラム Healthy Ageing ～Oral Health for an Aging Population～



今回の会議に至る経緯として、2015年3月に東京で日本歯科医師会等主催の「世界会議2015」が開催され、健康寿命を延伸させるための歯科医療・口腔保健のあり方をめぐって、国内外のエビデンスに基づく歯科医療政策の提言や、急増する高齢者の健康を守るための政策などについて意見交換がなされました。同会議では最後に『東京宣言』が採択され、今後日本のみならず世界先進国の高齢化社会に共通する課題とアプローチが明確となりました。

世界会議2015終了後、GCが世界の歯科界での「高齢社会に対する対応」という共通問題を解決することを目的にFDI（国際歯科連盟）とパートナーシップを結び、共同で『東京宣言』の志を継いでいくことを発表しておりましたが、その流れを組んだ今回の世界口腔健康保健フォーラム『Healthy Ageing（健康的老化）』です。健康長寿に対し歯科専門家として基本的役割を構築するためにGCがFDIとパートナーシップを結び、始まった今回の取り組みに世界中から非常に大きな注目が集まっておりました。

『Healthy Ageing（健康的老化）』では、理論から実践までコミュニケーションベースで高齢患者さんをどうマネジメントしていくのか。日本、ヨーロッパ、および中米の高齢口腔ケアモデルの一連のケーススタディを通して、口腔衛生と健康老化について深く検討されました。口腔健康は、私たちが年を取るにつれてとても重要な分野ですが、それはしばしばしっかり認知されておられません。



今回の世界口腔保健フォーラムは、FDI 会長の Dr Kathryn Kell 氏から「世界口腔健康保健フォーラムは毎年 FDI 世界会議で口腔健康と歯科に関する重要なトピックスに対する論議を徹底的に行うためのセッションです。FDI と GC は高齢社会に対する口腔健康に対する調査を促進するため、また、高齢者患者に対するケアや予防を改善する機会を獲得するためにパートナーシップを締結しました。口腔健康と健康的老化に重要なリンクがあることに注目し本会を開催します」といった挨拶から始まり、多くのスピーカーがプレゼンをしました。トップの発表では「FDI 高齢者社会に対する歯科医療タスクチーム」のチェアを務める深井 穂博先生が「大きく増える見込みの高齢者人口」の現状分析からはじまり、「日本の健康政策の取り組み」を詳しく紹介頂きました。

「誰も置き去りにしないためにも、各国政府との取組だけでなく、WHO や IADR などと一緒に前に進んでいく必要がある」といった話がなされました。



続いてフランス口腔健康組合代表でもある Sophie Darteville 氏からは、フランスでのスマートフォンを利用して、遠隔診療を老人ホームに提供する仕組みの発表があり、大きな注目を集めておりました。まず、老人ホームに供給されたスマホで患者アンケートを行い、口腔内スキャンもスマホのガイドに従って簡単に行い、それをアルゴリズムで解析し、結果を歯科医師が確認した「Recommendations」がそれぞれの患者さんに対して送られます。フォロ

ーアップも1年に2度のTele調査によりなされる仕組みで、多くの来場者の注目を集めておりました。その他多くのスピーカーからの発表後は、発表者だけでなく、今回の世界口腔保険フォーラムに参加した参加者から、英語・スペイン語で活発な質問や意見が提出され、「高齢社会に対する歯科医療」に関する世界的議論が深まりました。

健康長寿に対し歯科専門家として基本的役割を構築するために、FDIと組み世界へ向けて情報発信をするGCの取り組みに大きな注目が集まりました。GCのFDIとパートナーシップを結んでの取り組みは、日本を代表する企業・ブランドとしても誇らしく、今後も注目・応援したい取組みです。

## ② FDI-WHO-NCD Alliance の共同セッション ～Curbing the sugar rush～



また、注目を浴びていたのはFDI-WHO-NCD Allianceの共同セッションです。NCDという言葉が聞かれたことはございますか？ Non-Communicable Diseases(非感染性疾患)の略で、同NCDはがん・糖尿病・循環器疾患・慢性呼吸器疾患が含まれ、全世界の死因の約70%をも占めると言われております。不健康な食事や運動不足、喫煙、過度の飲酒などの原因が共通しており、生活習慣の改善により予防可能な疾患です。

今回の共同セッションでは、FDI Vision2020のシンクタンクメンバー、NCDアライアンスCEO、WHO口腔保健プログラム責任者、アルゼンチン保健省の健康促進局長と幅広い分野の専門家が集まり、「口腔健康とNCDコミュニティが共同し、日々の砂糖摂取量削減に注目して、経済的効果の高い予防的介入をどのように発展することができるか」について熱く議論がなされました。

WHO は肥満や虫歯を抑制するために、1日の摂取カロリーのうち、砂糖による摂取は10%に抑えた方が良い。またできれば5%に抑えた方が良いと示唆する砂糖ガイドラインを2015年に出しました。総摂取カロリー2000kcalに対し5%は「100kcal(砂糖25g分)」(砂糖1gで4kcal)ですが、350mlのコーラ1缶で砂糖35g、500mlのコーラペットボトルで砂糖50gを摂取してしまい、砂糖飲料を日常的に摂取するとあっという間に1日の適正摂取砂糖量を超えてしまいます。

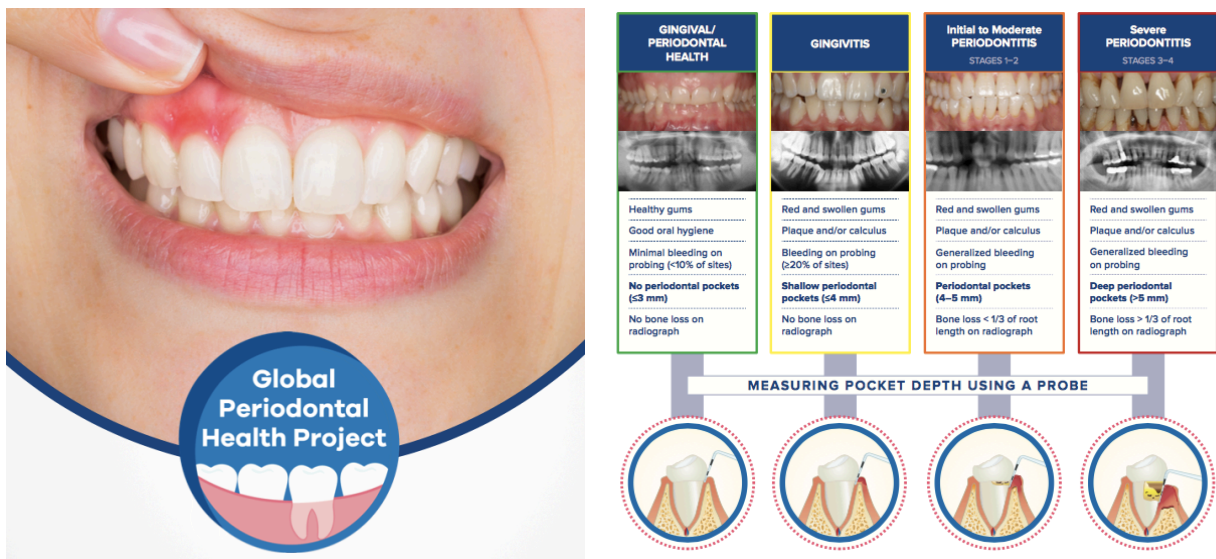


砂糖摂取は糖尿病、心疾患、がん、慢性腎臓病、虫歯など様々なリスクファクターとなります。また、過大な砂糖摂取は、依存症、死亡率を増加させ、社会的負担も増加させます。砂糖飲料(SSB)の消費により、133,000人もの糖尿病、45,000人もの心疾患、6,450人ものガンと、年間約184,000人もの方々が無くなっています。

その負担を抑制するために「砂糖税」導入、「食品ラベル表示規制」、「栄養教育」、「学校などには砂糖飲料を置かない規制」、「広告規制」など様々な面からの各国アプローチが紹介されました。「砂糖税」既には28カ国で取り入れられており、実際に砂糖消費量にも影響を与えるなど結果を残しております。「砂糖」に対する規制は「タバコ」や「アルコール」と同じような対策が必要だという世界的運動も広まっております。NCDsとOral Healthは同じ敵と戦っているのです、一緒に砂糖摂取の抑制に対する運動をして行きましょう！と、今回の座長も勤めたNCDアライアンスCEOのKatie Dain氏からの力強い意見などもあり、多くの質問・意見がパネリスト・聴取からもございました。

NCDは全世界死因の約70%も占め、生活習慣の改善などにより、比較的経済的に予防も可能ということからWHOも注目する分野ですが、このような分野にも、「口腔健康との関係性」も意識し議論できる場を提供していく取り組みは、今後も広がりを見せて欲しいところです。

### ③ GPHP (Global Periodontal Health Project)



また、昨年 FDI の世界口腔保健フォーラムで発起会を行い、以後 3 年間で集中的に歯周病予防のプロジェクトをしていこうという GPHP (グローバル歯周健康プロジェクト) も、昨年の発起会后に大きな進展を発表し注目を浴びておりました。

GPHP のプロジェクトチームでは『口腔健康及び全身健康に対する歯周病予防・マネジメントのための白書』を作成。その中の推奨の一つとして、「日常歯科診療の中で、基本歯周スクリーニング・検査が早期診断のために基本的に重要」「早期診断はシンプルで経済的な歯周病ケアには必須」といったものもありましたが、その診査・診断をシンプルなスコアリングで対応策も示すケアサイドガイドが発表され大きな注目を集めておりました。

早期に歯周病の兆候 (健康状態/歯肉炎/軽度中度歯周炎症/重度歯周炎) をつかむため「歯肉健康状態」「プラーク付着具合」「BOP 程度」「ポケット深さ」「骨吸収程度」といった視認・プローブ・レントゲンのみで判断できる歯周病進行表を用意。その進行表も参考にしながら、「歯周病による歯牙喪失有無」「BOP の程度」「ポケットの深さ」「糖尿病の程度」「喫煙の程度」「骨吸収程度」「プラーク蓄積程度」と、わずか 7 項目を「0、1、2、3 点」とスコアリングすることによる合計結果が、「0-5 点」ならば低リスク、「6-10 点」ならば中リスク、「11-19 点」ならば高リスクとリスクアセスメント表で判定します。そして、それぞれのリスク毎に低リスクならば DH メインのケアで SPT を年 1-2 回、中リスクならば DR と DH によるケアで年 2 回の SPT、高リスクならば年 2 回以上の SPT を DR と相談しながらするなどを含め、スコアリング毎のフォローアップの仕方までわかりやすく記載されております。

### Patient risk assessment

The following patient risk assessment can help categorize the patient's risk profile as either **LOW**, **MEDIUM** or **HIGH**. The periodontal risk assessment system should be used together with **Table 1**. Based on an observation of the patient, score each item and calculate the patient's overall risk score.

Q Item	Score = 0	Score = 1	Score = 2	Score = 3
1 Tooth loss due to periodontal diseases	No tooth loss	20-50% of teeth	> 50% of teeth	Tooth loss due to periodontitis
2 Bleeding on probing	< 20% of teeth	> 20-50% of teeth	> 50% of teeth	
3 Probing depth	< 3mm	> 3-5mm	Localized tooth sites > 5mm	Generalized tooth sites > 5mm
4 Diabetes	No	Well controlled (HbA1c < 7%)		Poorly controlled (uncorrected) (> 7%)
5 Smoking	No	< 10 cigarettes per day	10-15 cigarettes per day	> 15 cigarettes per day
6 Bone loss	< 10% of teeth	Initial bone loss	< 1/3 of the root length	> 1/3 of the root length
7 Heavy plaque deposits covering	< 10% of teeth	10-50% of teeth	> 50% of teeth	
	CATEGORY TOTAL	CATEGORY TOTAL	CATEGORY TOTAL	CATEGORY TOTAL
	TOTAL SCORE			

ASSESSMENT OF PATIENT'S RISK PROFILE	ABBREVIATED ASSESSMENT
LOW FINAL SCORE = 0-5	An abbreviated assessment can be completed if it is not feasible to complete the full questionnaire. If the patient has any of the listed items, he/she should be considered at risk, and necessary professional advice should be given.
MEDIUM FINAL SCORE = 6-10	
HIGH FINAL SCORE = 11-19	

NOTE: This assessment uses the main risk factors, but other risk factors could influence periodontal health, such as excessive alcohol and sugar consumption.

PATIENT'S RISK PROFILE		LOW TOTAL SCORE = 0-5	MEDIUM TOTAL SCORE = 6-10	HIGH TOTAL SCORE = 11-19
TREAT YOUR PATIENTS	TREATMENT GOALS	<ul style="list-style-type: none"> <li>Enhance plaque control for good oral hygiene</li> <li>Eliminate clinical signs of inflammation</li> <li>Avoid progression to periodontitis</li> <li>Maintain long-term periodontal health</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>Arrest disease progression</li> <li>Regeneration of lost structures as appropriate</li> <li>Surgical intervention as appropriate</li> <li>Further interventions to restore oral function and aesthetics</li> </ul>
	ANTHROPOMETRIC THERAPY	<ul style="list-style-type: none"> <li>Professional Mechanical Plaque Removal (PMR)</li> <li>Effective control of plaque and removal of the calculus through supra- and sub-gingival scaling and root debridement</li> <li>Perform scaling using sonic/ultrasonic scalars and hand instruments (scalers and curettes) with effective management of patient discomfort</li> <li>Removal of supragingivocoronas on tooth surfaces and newly formed calculus through prophylaxis and air polishing if appropriate</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Subgingival debridement using hand and/or ultrasonic instruments</li> <li>Evaluate the need for adjunctive antimicrobial therapies</li> </ul>	
	CORRECTIVE THERAPY	<ul style="list-style-type: none"> <li>Provide Oral Hygiene Instructions (OHI) to patient:                             <ul style="list-style-type: none"> <li>2 minutes twice-daily brushing with up to 1500ppm fluoride toothpaste</li> <li>Use manual or powered toothbrush for an effective reduction of plaque and gingival inflammation</li> <li>Use soft, small-headed brushes with ergonomized handles</li> <li>Daily interdental cleaning with interdental brushes and/or dental floss in sites with narrow interdental spaces</li> <li>Additional approach to be adapted to patient as appropriate, with subjective use of opacifiers and/or mouth rinses with scientifically proven antibioplake/antigingivitis effects</li> </ul> </li> </ul>		
PREVENTION AND LONG-TERM MAINTENANCE/FOLLOW-UPS		<ul style="list-style-type: none"> <li>Recall for supportive periodontal therapy (SPT) once or twice per year</li> <li>Polish tooth surfaces (bristle brush, rubber cup and air polisher) to be adapted to the patient to prevent plaque re-accumulation</li> <li>Oral Hygiene Instructions (OHI) and professional homecare recommendation</li> <li>Continuous risk assessment and risk factor control</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Recall for supportive periodontal therapy (SPT) twice per year upon professional recommendation</li> <li>Recall for supportive periodontal therapy (SPT) more than twice per year upon professional recommendation</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Recall for supportive periodontal therapy (SPT) more than twice per year upon professional recommendation</li> </ul>
		PRIMARY CARE AND PREVENTION, DELIVERED MAINLY BY A DENTAL HYGIENIST	PRIMARY CARE AND PREVENTION, DELIVERED MAINLY BY A DENTAL HYGIENIST AND/OR DENTIST	CONSULTATION AND CONSIDERATION FOR REFERRAL TO A PERIODONTIST

日常歯科診療の中で、歯周基本検査をしきれていないケースも世界では多いようですが、「シンプルでわかりやすい」スクリーニングと対策を示すチェアサイドガイドの発表により、「より」歯周予防・マネジメントが進展することが期待されます。

喫煙が1日15本以上だとハイリスクの3点、糖尿病もHbA1cが7%以上とプアコントロールだとハイリスクの3点というように、日常習慣や他病気との関連性も取り入れられており、このスコアリングシートを使用すれば、患者さんに「禁煙(節煙)指導」や「他病気との関連性」などの患者教育にも役立つことが期待されるなど、医院様でもFDI(世界歯科連盟)が提示した資料として、患者様診査や教育に活用してみても面白いかもしれません。

また、GPHPが歯周ケアのための課題の大きなものとしてあげているものに、歯周病に対する「低認識」があります。GPHPでは、歯周病を前述の主要慢性NCDs(非感染性疾患)のように他NCDsのリスクファクターの一つでもあることを歯科以外の医科とも共有し強調していく必要があるなどとも発表しております。

今後、前述砂糖消費に対して共同で活動しているNCD Allianceなどとも、歯周病予防についても共同戦線を張りながら、全身健康にも大きな影響を与えるファクターとして歯周病をクローズUPさせ、歯周病に対する認知度を「より」高めていくことができれば面白いなと感じました。

上記①健康的老化、②FDI-WHO-NCD Allianceの共同セッション、③GPHPを始め、非常に多くの興味深い学術プログラムが開催され、多くの方の注目を集めておりました。

以下、FDI世界歯科会議での展示会会場の様子もレポートさせていただきます。

## ① 日本企業ブース



今回の世界口腔保健フォーラム「高齢社会に対する口腔健康」プロジェクトの FDI パートナー企業として大きな注目を浴びた GC ブースには多くの来場者が集まっておりました。GC は 2021 年に 100 周年を迎えます。その 100 周年に向け Vision2021『健康長寿社会に貢献する世界一の歯科企業への挑戦』を掲げ、様々な取り組みを行っておりますが、今回の FDI 世界口腔保健フォーラムは超高齢社会の最先端を走る日本から世界へ「健康長寿 Healty Ageing」を発信し、世界中で健康長寿を目指すにはどうしたら良いか？と考える良い機会を与えたのではないかと考えております。

「個々の製品の品質」が良い製品を選ぶのはもちろんのこと、できれば「企業理念」「企業として目指す方向性」を応援したい企業の製品を選択したいものですが、GC は企業理念を実体化した強いプレゼンスを見せておりました。米国市場・南米市場でも大人気の同社グラスアイオノマーや CR など診療材料、技工材料など幅広い GC の製品群が世界中の多くの方から注目を集めておりました。





モリタブースでは、米州でも人気のルート ZX2 が注目を浴びるほか、ベラビュー X800 を目立つところに展示し、展示会中にも即日受注を受けるなど、多くの方々の注目を集めておりました。現地のディーラーブースでもモリタマークが見られるなど、地球の裏側アルゼンチン市場にもしっかり浸透しております。

また、タカラブースでは南米市場向けのユニットを展示し、注目を集めておりました。タカラは昨年ブラジルにも拠点を設立しましたが、コスタリカでは年間約 100 台、チリでは年間約 50-60 台とユニット販売しており、中南米市場においてもプレゼンスを発揮しており、それを拡大しようとしております。



松風は南米市場では、懇意にしている現地ディーラーが技工に強いこともあり、『セラマージュ』などの技工材料が特に人気で浸透しております。そんな松風ブースでは、技工材料はもちろんのこと、そこから、診療用材料にも注目してもらおうと、『ビューティーフィル』シリーズなど様々な診療用材料を紹介するほか、一番目立つ角地には『アイススペシャル C-III』を展示し多くの方々の注目を集めておりました。

また、サンスタースタースターブースでは VR を活用した説明動画コーナーなどももうけ、多くの方々の注目を集めておりました。他にもサンスタースターブースでは、日本では見られないような派手な色使いの歯ブラシなど、「その国・地域」の志向に合わせ様々な歯ブラシを展示し、多くの方々の注目を集めておりました。

地球一周で約 4 万 km ですが、ブエノスアイレスは東京から 1.83 万 km と地球の真裏に位置し、飛行機でも直行便では行けないエリアですが、そんな地球の真裏でも多くの日本企業が進出し活躍をしておりました。

## ② 海外大手企業ブース



世界中からドクターが集まるこの機会に、海外メーカーも多く出展しておりました。FDI パートナー企業でもあるプランメカは、今回の展示会でも最大級のブース展示で、同社のCT、ユニット、CAD/CAM システムを展示しておりました。前回 IDS で初お披露目となり、日本市場へはまだ入って来ていない口腔内スキャナ『エメラルド』や、プロマックスシリーズとはまた別の CT 『プランメカ Viso』 など各種新製品が大きな注目を集めておりました。また、デンツプライシロナブースでは、大人気のエンド『X スマート IQ+ウェーブワンゴールド』体験コーナーや、2 級窩洞充填に適した『V4 システム』など各種診療用材料・器械を体感できるコーナーを用意し、現地の方にも同社製品をご体感頂いていました。



日本ではビスタスキャンなどの IP スキャナや、消毒材などでお馴染みのドイツ『デュールデンタル』は、日本では発売していない CT や機械室系の製品展示も行うなど、大きなブースで日本での未発売製品も広くアピールしておりました。

また、3M では日本でも御馴染みの診療用材料製品群を多く展示し、FDI 特別価格として価格提示をしながら多くの方の注目を集めておりました。

ほか、カボはダナハグループ他ブランドの「カー、ノーベル」と一緒になっての展示で、「カボ/カー」グループとしてグループでのイメージを新たに強調するなど、各世界大手のグローバル企業も夫々のブランドを大きく宣伝しておりました。

### ③ 予防関連企業ブース

前回 FDI に引き続き、各メーカーが大きな展示ブースを設けて、会場でも特に目立っていたのは予防関連企業の展示です。



グラク・ソスミスクラインは前回 FDI に引き続き、プランメカと同程度の最大ブースを会場で構え、ブース内にミニセミナー会場も設けて、多くの方々に同社製品情報を発信しておりました。昨年に引き続き、VR での製品説明なども行なっており、人波が絶えないブースでした。

また、日本でもクラブックスが人気のクラデン社は、同社歯ブラシや、歯間ブラシを展示し、i-TOP という同社教育システムも説明しておりました。i-TOP は患者さん自身が口腔健康を保てるようモチベーションに注目した実践的口腔予防ハンズオンプログラムですが、単に予防製品を売るだけではなく、その予防の大切さを理解して頂き、モチベーションを高め予防製品を如何に活用してもらうかという教育まで踏み込んだ企業の取り組みに大きな注目が集まっておりました。



他も予防製品大手の各社は、FDI 展示会会場で大きなブース展示を行い、多くの来場者の注目を集めておりました。

#### ④ アルゼンチン現地企業ブース



アルゼンチンの首都ブエノスアイレスでの開催とあってアルゼンチン企業も大きなブースで出展しておりました。まず目立ったのは、会場の奥に大きなブースを構えて人だかりができていた『DIS-DEN』ブースです。同社は1954年設立の歯科トレーダーで、多くの地元顧客を掴んでいるのか人だかりができていました。

また、GCブースの隣で、GC製品を多く紹介していた『Plus Dental』はパッと見ただけでもGCのロゴが5つも掲載されていたなど、かなりGC製品を強く押し出している地元ディーラーです。1984年設立も、米国に新たに子会社を設立し、自社ブランドとそのブランドの研究・開発・国際マーケティングなどを行うなど元気のある企業でした。



また、GCやモリタと日本企業のロゴを並べて販売していた『Grimberg Dental』は、ルーツは1900年代前半にさかのぼるアルゼンチン老舗歯科業者で、歯科関連機器器材卸『Grimberg Dentales SA』としては1994年に設立されました会社です。

アルゼンチン企業もトレーダー・ディーラーを中心に多く出店し、注目を集めておりましたが、その中に多くの日本企業製品もあり、地球の裏側でも多くの日本企業の製品が活躍していると実感できました。

## ⑤ 各国企業ブース



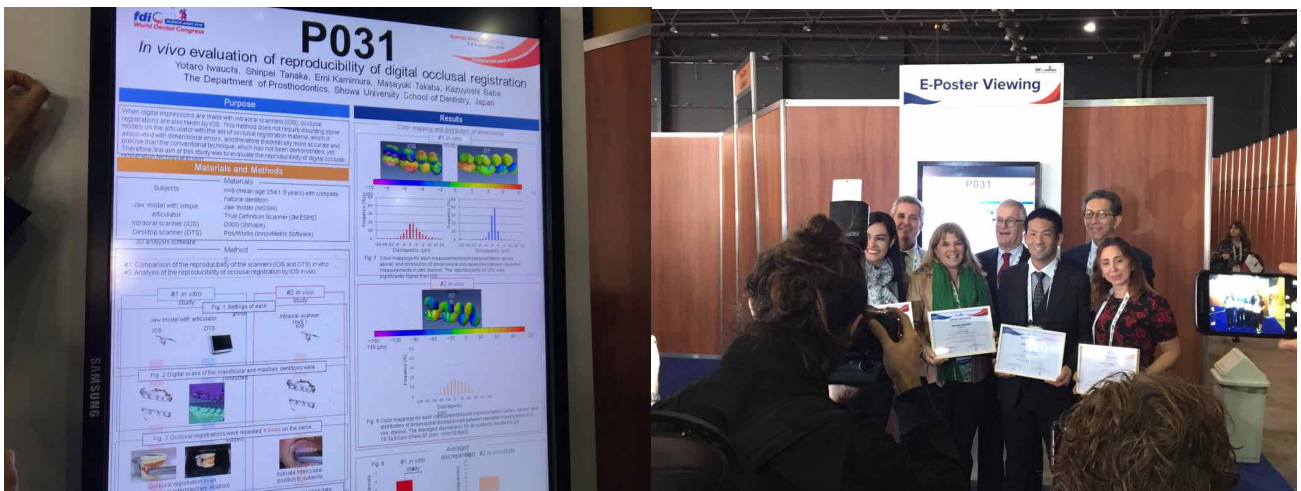
各国の企業が集まった国別パビリオンも注目を集めておりました。国別パビリオンの中で展示が上手いと感じたのは、ドイツパビリオンです。国旗カラーもうまく活用しながら目立つ掲示を上部にあしらい、国別パビリオンとしての統一感を出しながらも、各企業別にコマも綺麗に分かれているので、企業の展示もしやすそうに感じました。ツアイスのエクスタロー300や、DMGの各種製品なども同パビリオン内で紹介されておりました。



他にもアメリカは比較的近い市場の南アメリカ市場に向け、BISCO社やBIOLASE社などが出店、小規模出店が多いも国別パビリオンで出展者数では1番の中国パビリオン、ブースを一角に絞りながらも国としてのカラーをうまく打ち出しているブラジルなど、国別パビリオンでも各国が自身の色を出しながら、様々な製品を紹介しておりました。

また、FDI のポスター展示発表コーナーでは、大きな液晶画面上で様々なポスターを見ることのできる E-ポスター展示がされました。昭和大学歯科補綴講座の岩内洋太郎先生が中心となって制作したポスター『デジタル咬合採得の再現性の生体評価』が、215 出展と数多く発表されたポスターの中から FDI ポスターアワードを受賞致しました。

口腔内スキャナなど今後注目の最新分野研究で、昭和大学大学院生の若手有望歯科医師が世界的な賞を受賞するなど、日本若手歯科医師の未来の活躍にも期待できる一面でした。今後も日本から世界へ向けて様々な情報発信をしていけたら良いなと考えております。



最後に…

最後まで長いレポートをお読み頂き誠にありがとうございます。

新製品という意味ではさほどありませんでしたが、世界歯科界を代表して色々な情報発信を行っていく場にて、皆様に少しでも面白みを感じて頂ける情報との出会いがあれば幸いです。

近年アルゼンチンは通貨(アルゼンチンペソ)下落、年 25-30%という超インフレに苦心しており、今回の FDI 直前の 8 月 30 日にはアルゼンチン中央銀行が政策金利を 45%から 60%に引き上げることを発表したものの歯止めがかからず更に通貨が対ドル前日比 10%も暴落してしまう (6/1-8/30 の 3 ヶ月間で 25.0 ペソ/ドルから 37.6 ペソ/ドルへ約 50%も下落) など「通貨・経済危機」といっても過言ではない状況下での開催でした。

渡航前は外貨を持っている外国人は危ないのではないかと細心の注意を払っての入国でしたが、通貨危機にある意味慣れている国アルゼンチンではなんのその。もちろん南米訪問上での最低限の注意は必要ですが、旅をする上での大きな影響は感じられず、イタリア・ス

ペインからの移民が多いラテン気質な方の多い「南米のパリ」では美味しい牛肉・美味しいワインに、仕事後の夜はタンゴと満喫させて頂きました。



アルゼンチンの牛肉消費量は年間 60kg(日本の米消費量が数年前 60kg でしたが、今はそこまでいかないため日本人にとっての米以上)と言われるほどの「牛肉愛好国」です。

そのアルゼンチン赤身肉と現地産赤ワイン「マルベック」の組み合わせは、マスターオブワインも名を上げるほどの美味しさです。出来ればアルゼンチン本国で味わってみたいところですが、今年 6 月から農水省がアルゼンチンの一部地域からの牛肉輸入を解禁し、7 月に丸紅が同国牛肉加工業者と牛肉調達契約締結、国内で始めて日本への輸入開始するなど、世界的に評価の高いアルゼンチン産牛肉も今後は日本市場でも見かける機会が増えてくるかと思われます。見かけたら是非一度試してみてください。

FDI は、日本歯科医師会や日本歯科商工協会をはじめ世界の 200 もの歯科関連団体がメンバーを構成し、歯科界を代表して WHO などへも情報提供を行い、WHO から発信される情報は各国の厚労省のような政府機関にも広く知れ渡ります。

世界的な潮流や、歯科会として目指していく方向性などを生でダイナミックに実感できます。また若手で活躍する岩内先生のようにポスター発表もできる他、一般学術公演でも質問や意見を言えるセッションが多い貴重な場です。

次回の FDI は 2019 年 9 月 5-8 日に米国サンフランシスコで開催されます。米国西海岸で、ワインで有名なナパバレーも近く、シーフードで有名なフィッシャーマンズワーフもあるなど、食事や飲み物も美味しそうな街での開催となります。

またその後は、2020 年 9 月に中国・上海、2021 年 9 月は豪州シドニー開催と決定しております。世界各地で開催される FDI は、世界各国の文化や食などに触れるチャンスでもあるので、一度足を運んでみられては如何でしょうか。



私共、歯科ディーラーにとって第一の努めは、歯科医療従事者の皆様へ『よい情報、よい製品』をいち早く正確にお届けし、『歯科医療従事者の皆様へのお役立ち』をすることだと考えております。そして、歯科医療従事者の皆様へのお役立ちを通じて、皆様の笑顔や健康に少しでも寄与できたら良いと考えております。

『人々の笑顔、健康に寄与することを目指して！』今後とも歯科医療従事者へのお役立ちを第一に、様々な情報発信に努めて参りますので、引き続きご愛顧のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

以 上

(取材・編集)株式会社シラネ 代表取締役 榊原利一郎